

Make the impossible possible. 「不可能」を「可能」に

学校長 横山 豊



高校3年生諸君、ご卒業おめでとうございます。英語で「先入観とか思い込み」のことを、少し長い単語ですがpreconceptionsとかpreconceived notionsと言います。

最近、老若男女問わずに大人気の大谷翔平選手は、『先入観は「可能」を「不可能」にする』という言葉が高校時代に監督からももらったそうです。

現代野球において「投手」と「野手」は明確に分業が進んでおり、「ピッチャーをしながらバッターもする」などということはアマチュアまでの話で、プロでは無理。どちらかに専念した方が成績は伸びる、というのが常識(先入観)だそうです。大谷選手はその常識(先入観)を打ち破り、日本のプロ野球どころか現在メジャーリーグにおいても数々の記録を更新し続けています。

並みの人間であれば「そうだな」と考えて諦めるのが普通ですが、大谷選手は諦めることなく「二刀流」に挑戦し続けました。

実は見回してみれば、世の中は当然であるという常識(先入観)で溢れています。皆さんも、その常識(先入観)とやりに振り回されていませんか? 「どうせやってもできない」「やるだけ無駄だ」「〇〇大学は難しく、どうせ私は合格できない」……。最初から諦めてしまっていないですか?

しかし、まことしやかなこの常識(先入観)が、「可能」を「不可能」にしてしまうことが多々あります。

「不可能は神が決める。しかし、不可能を可能にするのは人間の意思のみだ」かつて、このように述べて不可能を可能にした、やはりメジャーリーガーのジム・アボットという選手がいました。メジャーリーグのファンであれば、誰でも知っている選手であると思います。

彼は生まれつき右手の手首より先がなかったにもかかわらず、巧みにグラブを持ち替えて、左手のみで投球・捕球・送球を行うグラブスイッチと呼ばれる投法を編み出し、右利き用のグラブを右手の手首の上に乗せ、左手での投球の直後にそのグラブを左手にはめ直し、打球を捕球した後は、素早くボールごとクラブを右脇に抱えて外し、左手でボールを取り出して送球しました。それでも、

彼の守備力は平均以上であったという統計が残っているそうです。彼はプリント中央高等学校でエースとして活躍した一方で、アメリカンフットボールのクォーターバックとしても同校を州大会優勝に導きました。また、野球選手としての実力が評価され、卒業後にドラフト36巡目でトロント・ブルージェイズから指名を受けましたが、契約せずにミシガン大学へ進み、チームを2回の優勝に導きました。1987年には、野球選手としては初めて、全米1のアマチュア選手に与えられるジェームスサリバン賞を受賞。その後行われたソウルオリンピックでは日本と対戦し、先発して完投、アメリカは金メダルを獲得しました。彼は誰もが不可能だと思ったことを可能にしてみせたのです。

不可能を可能にするは、英語でMake the impossible possible.と言います。

日本語では「不可能」から「不」を取れば、「可能」になります。

英語でも「impossible」から「im-」を取れば、「possible」になるのです。

概して、人は「不」とか「im-」といった「…ない」というマイナスの先入観にとらわれてしまいがちです。

君たちは今後の人生の中で、自分自身で勝手に限界を作り、物事を初めから「不可能」と決めつけて諦めたりせず、大谷選手やアボット選手のように、「不可能」を「可能」に変えるまで、ひたむきに努力してください。果敢に挑戦し続けることで、一見「不可能」であると思われることも「可能」になるのです。

Make the impossible possible.

「不可能」を「可能」に。

